

校名：岩手大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒020-0807 岩手県盛岡市加賀野三丁目9番1号 電話番号：019-622-4691

記載日：平成28年5月20日 記載者：下山 恵 記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について

四季折々に変化のある恵まれた園庭の自然環境を生かし、五感を働かせた様々な遊びの体験を通し、「心身ともにたくましく、心豊かな子ども」をはぐくんでいきます。

遊びで育つ

幼児の主体的な遊びを大切に、自ら遊びを生み出し、遊び込む生活を通し、生きる力の基礎を培う。

子どもの心で 自分づくりを支える

子どもの心に寄り添い、一人一人のそのらしさや自ら伸びようとする力を引き出し、自分づくりを支える。

多様な体験で学びの基盤づくり

身近な自然、まわりのものやできごと、様々な人とのかかわりの中で、多様な体験を積み重ね、小学校以降の学習の基盤をつくる。

チーム保育

全教職員で子どもに向き合い、一人一人のよりよい育ちを支えていく。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査は特にしていない。
- ② 修了生やその保護者からの情報提供がある場合は、幼稚園で把握している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしている。
- ② 学事関係職員録を通して、幼稚園が勤務校を把握している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

〔花 育〕

岩手大学が全学あげて取り組んでいるのが環境教育です。附属幼稚園では、その一環として、平成22年度から花育に取り組んでいます。「花や緑に親しみ、育てる機会を通してやさしさや美しさを感じる気持ちを育てる」ということをねらいとして取り組み、今年で7年目となります。本園の修了生の保護者であり、花育アドバイザーの資格を持つ方に、指導に加わっていただいています。子どもたちは、花を育てることを通して、自然に親しみ、美しさを感じるとともに、それらを取り入れた様々な遊びや活動を楽しんでいます。

◆ペットボトルのハンギングバスケットづくり（年長児：5月）

2リットルのペットボトルに、樹脂絵の具で思い思いに彩色し、花を植える容器を作ります。そこに、土とベゴニア2株を丁寧に詰めていきます。自分のハンギングバスケットができることで、花への親しみや慈しみが芽生えます。毎日水遣りをしながら、花の生長に思いを寄せていきます。



夏休みには、家庭に持ち帰り各自世話をします。休み明けには、また園に持ってきて、園庭に飾ります。霜が降りる11月ぐらいまで、赤やピンクのベゴニアが園庭を彩ります。

大きく育ったベゴニアの花を前に、感動を絵に表したり、花殻を使って色水づくりを楽しんだりするなど、花を育てることを通して、多様な体験につながっていきます。



◆「もりお花ハンギングバスケットフェア」への参加（年長児：6月）

毎年6月に開催される盛岡市主催の「もりお花ハンギングバスケットフェア」に出展し、地域の皆様方の目を楽しませています。また、ペットボトルを利用したハンギングバスケットは、身近な素材を使って、幼児でも取り組める活動として、モデルとなっています。



◆種団子づくり（年中児：11月）



団子状に丸めた土に、複数の種類の種をまぶし、それを花壇に並べます。春にから夏にかけて、時期時期に、様々な種類の種から発芽し、色々な花を咲かせてくれます。

年中児は、年長組に進級する春に思いを馳せながら種団子づくりを楽しみます。

咲き終わった花を使って、ごちそうづくりや色水づくりを楽しむなど、遊びに活用されます。



【親子神楽鑑賞会】

平成22年度から、年始めに（冬休み明け直後）、早池峰の大償神楽の流れを汲む岩手県紫波町の星山神楽の皆さんをお招きして、親子での神楽鑑賞会を行っています。

地域の伝統文化に触れることで、民俗芸能に興味関心をもったり、太鼓や鉦、笛などの和楽器の音に接して、日本人としての感性が呼び覚まされたりしていくのではないのでしょうか。和の文化への理解・継承につながっていくことを願うものです。

神楽は、幼稚園のホールに特設の舞台を設置して行われます。演目は毎年異なりますが、最後に必ず舞われるのが権現舞。権現舞のクライマックスは、権現様に頭を噛んでもらうところです。権現様に頭を噛んでもらうと、1年間健康に過ごせると言われます。そこで、権現様には、全園児の頭を噛んでもらいます。保護者の中には、未就園の小さなきょうだいを連れてきますので、そ



の子達も権現様に頭を噛んでもらいます。

未就園の子どもたちや年少組では怖くて泣き出す子もいますが、年長組になると、頭を噛んでもらうことを心待ちにするようになります。「去年は怖かったけど、今年は怖くなかった。」など、子ども自身が自分の成長を実感する場ともなっています。

神楽鑑賞後は、それが親子での共通の話題となったり、遊びの中に神楽ごっこが始まったりするなど、興味関心が広がったり深

まったりしていきます。

星山神楽には、小学生から大学生までの、学齢のメンバーもいます。園児と年齢が近い舞い手が演じる姿は、園児にとって、大変刺激になっています。

それと同時に、神楽鑑賞会で民俗芸能に心動かされ、関心を寄せていく幼児や保護者の存在は、民俗芸能を支える将来の担い手を育てていくことになるのではないかと思います。



【テラコッタで雛人形づくり】



年長児は、教育学部の美術科の先生に指導をいただき、テラコッタを使ったお雛様づくりに取り組みます。学部教員の専門性を生かした指導で、子どもたちの表現意欲が引き出され、個性豊かなひな人形が出来上がります。2週間ほど乾燥させた後、学部にある窯で焼いてもらい、完成となります。

学部の人的・物的環境を生かすことで、年長児の体験の幅を広げ、活動の充実につなげていくことができます。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

毎年公開保育研究会を開催し、研究成果を発信したり、地域の講習会や研修会等に講師としてかわったりする中で、地域の幼児教育のモデルとなっている。

また、保護者からは、自然環境が豊かな園庭、豊富な遊具が整う環境の中で、一人一人の育ちに寄り添い、その子らしさや多様な能力を引き出すような、幼児期にふさわしい質の高い教育が受けられる場、子どもが育つ過程への理解が深まり、子どもとのかかわりに喜びを見出せるなど、親として成長できる幼稚園として受け止められている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

国立大学附属校としての90年近くに及ぶ長い歴史をもつ幼稚園として、県内唯一の機関であり、研究、教育実習、地域の幼児教育の発展に寄与してきた。

本学部には、幼稚園教員養成課程がないものの、幼稚園教諭免許の取得を希望する学生が多く、毎年40名を超える学生の実習を受け入れている。本園教員は、学部における幼稚園教諭免許取得にかかわる保育関係の講義を担当している。現場教員ならではの豊富な実践をもとに、幼児期の教育の具体を理論と重ね合わせた講義内容となっている。幼稚園現場の教員の講義や実習を受講し、幼稚園教育に魅力を感じ、幼稚園教諭を目指す学生も少なくない。また、小学校以上の校種の教員を目指す学生でも、幼稚園の講義や実習を通して、幼児理解の重要性に気づかされ、教育の原点として、学習者理解の重要性を学んだという者が多い。このように、本園での教育実習は、教職を目指す学生の教育に対する意識を変えたり、高めたりすることに大きく貢献している。

地域とのかかわりでは、毎年、公開保育研究会、教員免許状更新講習を開催し、県教育委員会の幼稚園教員等初任者研修での講師や地域の幼稚園等の研究会の講師を務めるなど、研究機関として県内幼児教育のリーダー的役割を積極的に果たしている。

本県の公立幼稚園の教諭は、行政職が大半であり、人事交流で幼稚園と保育所を行き来する者も多い。昨今の少子化の中で、公立幼稚園も統廃合や民営のこども園への移行が進み、減少の一途を辿っている。広大な面積を有する本県では、公立幼稚園が存在せず私立幼稚園のみという地域や保育所のみというところも少なくない。このような現状の中で、保育の本質を追求し、質の高い幼児期の教育の実践に取り組んでいる本園の果たす役割は大きい。

また、幼稚園は、幼児期にふさわしい生活を通して子どもが育つ場であると同時に、保護者が親として成長していく場でもある。保護者の親としての成長が何より子どもの育ちにつながる。本園には、子どものよさや育ちを理解する多様な機会があったり、保護者同士が交流し、つながる場があったりするなど、幼稚園だからこそできる保育者の成長支援を行っている。子育てに喜びを見だし、子育てへの意欲を引き出す幼稚園として、無くてはならない存在である。